

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 環境厚生分科会		会議場所 第1委員会室 担当職員 小野
日 時	令和2年9月16日(水曜日)	開 議 午後 1 時 30 分 閉 議 午後 4 時 12 分	
出席委員	◎並河 ○大塚 長澤 富谷 平本 三宅 小松 西口		
理事者 出席者	【環境市民部】 由良部長 [環境政策課] 山内課長、大倉環境保全担当課長 [火葬場整備推進課] 藤本課長 [環境クリーン推進課] 大西課長、西田施設担当課長、四方埋立担当課長 [市民課] 増田課長、上澤市民相談係長 [保険医療課] 荻野課長、吉田副課長、吉野高齢者医療係長、岩佐国保料係長		
事務局	山内事務局長、小野主任		
傍聴者	市民 0名	報道関係者 0名	議員 0名

会 議 の 概 要

- 1 開会
- 2 事務局日程説明
- 3 付託議案審査

[理事者入室] 環境市民部

(1) 第6号議案 令和元年度亀岡市一般会計決算認定（環境市民部所管分）

- <環境市民部長>
(概要説明)
- <市民課長>
(資料に基づき説明)
- <環境政策課長>
(資料に基づき説明)
- <火葬場整備推進課長>
(資料に基づき説明)
- <環境クリーン推進課長>
(資料に基づき説明)
- <保険医療課長>
(資料に基づき説明)

～ 14 : 09

- [総務費]
- <小松委員>

行政なんでも相談所の相談件数は、資料の中にある行政関係の件数ということか。

<市民課長>

相談内容で区分しているため、資料の中では行政なんでも相談の件数はわからないが、毎月実施している行政相談と年2回実施している行政なんでも相談を合わせて、年間95件の相談があった。ただし、行政相談のほかに相続などの内容もあるため、区分でいうと行政関係だけではない。

<小松委員>

亀岡市に対して苦情や要望があった場合は、どのように対応しているのか。

<市民課長>

亀岡市に対する相談があった場合には、各担当課へスムーズに繋げるよう対応しており、市で解決できない国の行政機関などへの相談については、行政委員から国の機関に話を繋いでもらっている。

<長澤委員>

各種相談日は、キラリ亀岡おしらせで案内されているが、市の職員が相談を受けることはあるか。

<市民課長>

市民相談の相談員を配置しているが、相談員がいない場合は、職員が対応することもある。

<長澤委員>

相談者が資料を相談員に渡した場合は、相談員や外部の団体が資料を保管されるのか。

<市民課長>

資料を見ながら相談を受けたり、記入の方法を教えることはあるが、基本的に資料を預かることはない。

<三宅委員>

コンビニで住民票をとれるようになったが、市町村によっては印鑑登録証明書をとれるところもあると伺った。市町村によって対応が異なるが、亀岡市の今後の方針は。

<市民課長>

現在は、住民票と印鑑登録証明書を発行している。戸籍はとれないのかとの要望があり、近い将来に全国で戸籍の副本が電算化され、令和5年度からは、どこの市町村の窓口でも、どこに本籍地があってもとれるようになるかと聞いている。そうなることでコンビニでの発行のニーズはなくなると考える。また、パスポートや公的な機関へ提出する戸籍の添付が不要になると聞いている。

<富谷委員>

月2回実施されている法律相談の予約状況は。

<市民課長>

年48回実施しており、1回に9人の相談を受けているが、ほとんど予約が埋まっている状況である。

<富谷委員>

申し込みが0人の場合もあるか。

<市民課長>

機会が足りないくらい好評をいただいている。

<富谷委員>

市内の小学生を対象として冬休みに省エネチャレンジシートを配布し、児童がチャレンジに取り組んだとあるが、今後の方向性は。

<環境政策課環境保全担当課長>

京都府でも夏休みの課題としてチャレンジシートを実施しているが、亀岡市でも全小学校を対象にチャレンジシートを実施した。前は、京都府と実施時期が重ならないよう冬休みに実施し、今年度も実施する予定で、時期や対象について検討している。今後も続けていきたいと考えている。

<富谷委員>

家庭向け自立再生可能エネルギー導入事業費交付金の実績は、24件と記載があるが、先着20件ではなかったか。

<環境政策課環境保全担当課長>

当初20件で募集したが、京都府から追加の補助金があり、それを活用して最終的に24件とした。

<富谷委員>

各自治体によって交付金の上限が決まっているが、亀岡市はどのようになっているか。

<環境政策課環境保全担当課長>

亀岡市では、太陽光に係る補助金は一度終了しており、現在は京都府からの補助金を交付している形で、亀岡市の持ち出しはない。太陽光発電は1kwあたり1万円で上限が4万円、蓄電池設備は1kw/hあたり35,000千円で上限が21万円、合計25万円となっている。

<平本委員>

P81、フライバッグの今後の方向性は。

<環境政策課長>

昨年度実施した際には、すぐに定員を満了し好評をいただいた。今年度も実施する予定としているが、コロナ禍の中で実施方法について検討している。

<平本委員>

新たな周知の方法は検討しているか。

<環境政策課長>

市のホームページで、映像などを発信しており、今年も制作の過程や関わりといった情報の映像を作成したいと考えている。常に周知を図りながら事業を進めていきたいと考えている。

<平本委員>

最終的には、どこを目指しているのか。

<環境政策課長>

この事業は、当初からまちに仕事をつくりたいという思いがあり、現在は仕事の素材づくりの場をつくっている。フライバッグは銀座ロフトで販売されると聞いており、亀岡市でもフライバッグが販売され、経済と環境が一体で進められるというモデル事業としたいと考えている。

<平本委員>

亀岡市から自立して雇用が生まれたいよう事業を進めていただきたい。

<環境政策課長>

自立しないと事業が継続しないと考えており、それに向けてのサポートや支援を行い、ゆくゆくは自立していただきたいと思っている。

<平本委員>

いつまでも行政が関わらないと事業が成り立たないというのであれば、継続する意味がないので自立に向けて取組を進めていただきたい。

<西口委員>

今年ファブリダムを落としたのはいつか。

<環境政策課環境保全担当課長>

本日である。

<西口委員>

その結果は、まだ出ていないということか。

<環境政策課環境保全担当課長>

結果はまだ出ていないが、本日の調査に参加した際、アユモドキは例年より少し多いという印象であり、他の魚類も様々な種類が確認できた。この件に関しては、改めて報告する。

<西口委員>

外来魚は、昨年度と比べてどのような状況か。

<環境政策課環境保全担当課長>

昨年からNPO法人が、中山池の水抜きと合わせて、大規模な外来魚駆除を行っている。その効果もあって曾我谷川周辺では、外来魚をほとんど確認できなくなっており、数年は外来魚の繁殖を抑えられるのではないかと期待している。

<西口委員>

アユモドキの保全を行うにあたり、現状維持の姿勢では減っていく一方であるため、繁殖させる方法を検討していただきたい。地元で一生懸命保全活動を行っているため、亀岡市においてもこれから先のことを見据えて取組を進めていただきたい。

<並河委員長>

マイナンバーカードの交付状況は。

<市民課長>

交付状況は8月末現在で15,966枚、人口比で18.15%。マイナポイントの加算がつく関係で、申し込み件数は増えてきている。

[民生費]

<三宅委員>

在日外国人の給付金については、1人発生しているが、今後の見通しは。

<市民課長>

外国人の方は、昭和57年1月から国民年金強制加入になっており、それ以前に障がい者になった方は、障害年金が支給されない状況であり、それを救済するための給付金である。それ以降の方は障害年金に該当するため、該当者が増える見込みはなく、現在該当している1人のみに給付していくことになると思われる。

<富谷委員>

老人医療費助成制度の給付件数が減ったとのことであるが、大幅に減った原因は。

<保険医療課長>

平成27年に制度改正があり、5年の経過措置が終了したことに伴い、件数が減っている。

[衛生費]

<三宅委員>

新火葬場現地測量、地質調査業務とは、どの場所をさしているのか。

<火葬場整備推進課長>

現在計画している余部町丸山の現地測量である。20年前の紙ベースの測量図しか

ないため、電子化した基本的な資料とするために測量とボーリング調査を行うものである。

<三宅委員>

あの場所に火葬場を建設することが確定しているという前提で進んでいるのか。

<火葬場整備推進課長>

審議会であの場所に優位性があるという結論に至ったため、それを受けて最終的にその場所に確定するのか、近隣住民の方に説明し理解を得ながら進めていきたいと考えている。

<平本委員>

浄化槽設置整備について、一定普及したと思うが、まだ継続するのか。

<環境政策課長>

昨年度の設置件数は2件であったが、設置率は約44%で、地域で言うと畑野町では25%台であるが、水道事業の関係で支出があり、浄化槽の整備までは一度にできないとの声もあり、そういったことを考慮すると、もう少し事業を継続していく必要があると考える。

<平本委員>

高齢者は、費用をかけてまで浄化槽の整備を考えていないという声を聞いている。一定見通しがたった時点で事業の在り方を考えてはどうか。

<環境政策課長>

平成26年にアンケートを実施したことがあるが、高齢世帯が増えていることや子どもが地元に戻ってこないなどの理由によって設置を考えていないとの回答が多かった。しかし、公共水域の保全を図るためには、水洗化率100%を目指す必要があるため、そのためには浄化槽は最後の砦であると考えているため、今後の在り方も含めて考えていきたい。

<小松委員>

し尿を若宮工場で処理した場合と、船井郡衛生管理組合に委託した場合で費用はどの程度違うのか。

<環境クリーン推進課長>

運搬距離が遠いことや諸経費がかかるため、昨年度より若干増えている。

<小松委員>

委託料の単価はこのまま継続していくのか。

<環境クリーン推進課>

協議の中で13,710円/ℓとしている。今年度も同じ単価で委託している。

<三宅委員>

若宮工場の解体について、当時の環境市民部長から掘削してみないとどれぐらい費用がかかるかわからないと答弁があったが、何年か経過しているため、現時点での見通しは。

<環境クリーン推進課>

今年、解体も含めて調査設計を行っており、その結果で概要がわかってくるのではないかと考えている。

<大塚副委員長>

死亡者数は増えていると思うが、火葬場の炉に余裕はあるか。

<火葬場整備推進課長>

余裕がないわけではないが、2040年には死亡者数が年間1200人程度になると予想されている。現在、3炉であるが、その頃には、4炉必要であると考えてい

る。

[商工費]

<平本委員>

市民相談は、必要な事業であると考えているが、新型コロナウイルス感染症の影響で雇用や社会情勢が不安定な中では、悪質な商法や詐欺まがいな案件がでてくると思うが、それに対応できる体制はとれているか。

<市民課長>

特にインターネットのトラブルが増えてきている。現在は、相談員1人がフルタイムで勤務しているが、京都府や京都府南丹広域振興局にも相談窓口があるため、亀岡市だけで対応できない場合は、そちらにも協力していただいている状況である。

<平本委員>

警察との連携は。

<市民課長>

被害届などは本人が提出するものであるが、内容に漏れがないように情報提供を行っている。

[災害復旧費]

(質疑なし)

[歳入]

(質疑なし)

～ 15 : 12

(2) 第7号議案 令和元年度亀岡市国民健康保険事業特別会計決算認定

<保険医療課長>

(資料に基づき説明)

～ 15 : 46

[質疑]

<富谷委員>

ジェネリック医薬品の普及率は。

<保険医療課長>

亀岡市におけるジェネリック医薬品の使用割合は、厚生労働省が発表している平成31年3月診療分で71.4%、参考として京都府も71.4%で同率となっている。

<並河委員長>

保険料の滞納がある方には、6カ月証を発行しているが、期限がきた場合はどのような扱いとなるのか。

<保険医療課長>

今年4月に6カ月証の更新を行う際、3月に呼び出しを行ったが、来られない方については、コロナ禍の中であるため保険証をすべて郵送した。更新の呼び出しを行

う理由のひとつとして、面談の機会を設けるということがあり、税機構との連携を行うためにも、引き続き更新の呼び出しは行っていきたいと考えている。

<並河委員長>

国民健康保険事業の基金は、4億7500万円と規模が大きいが、保険料の引き下げの考えは。

<保険医療課長>

基本的に、基金は予測できない場合に使用するものであるが、年度間の均衡や激変緩和を図るためには使用していきたいと考えている。

<富谷委員>

亀岡市の1人あたりの医療費は、京都府内で比較するとどのぐらいか。

<保険医療課長>

これまでは平均以下であったが、現在は平均程度である。

～ 16:03

(4) 第10号議案 令和元年度亀岡市後期高齢者医療事業特別会計決算認定

<保険医療課長>

(資料に基づき説明)

～ 16:10

[質疑]

<長澤委員>

債権管理について関係課と連携していると説明があったが、具体的にはどのような内容か。

<保険医療課長>

会計管理室財産管理課と連携して債権の管理を行っている。

[理事者退室]

散会 ～ 16:12